

『呉市の現状と地域包括ケアシステム』

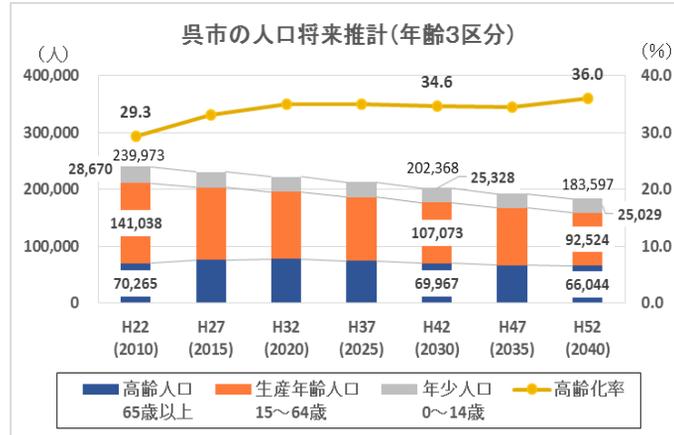
1 呉市の高齢者を取り巻く状況

人口減少

呉市（旧合併町を含む）の総人口は、1975（S50）年の約31万2千人をピークに減少に転じています。

呉市の人口ビジョンでは、今後も減少傾向は続き、2040（H52）年には約18万3千人程度まで減少すると見込まれています。

一方で、高齢化率は今後も上昇する見込みです。



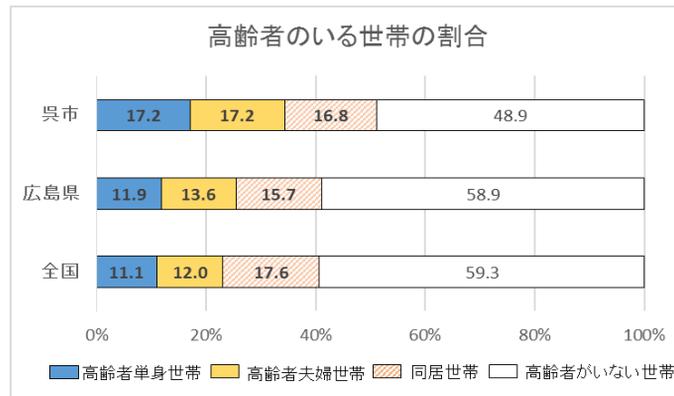
資料: 呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョン(平成29年度改訂版)

高齢者世帯と生活支援ニーズ

呉市における、一人暮らし高齢者と高齢夫婦世帯は、全世帯の34.4%で、広島県や全国と比べ、割合が高くなっています。

一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯では、同居家族がいる世帯に比べて、早い段階から、掃除や買い物、調理などの生活支援ニーズが高まります。

加えて、見守り、緊急時の対応、外出支援など、在宅での暮らしを支える生活支援ニーズは、増大・多様化していくことが予想されています。

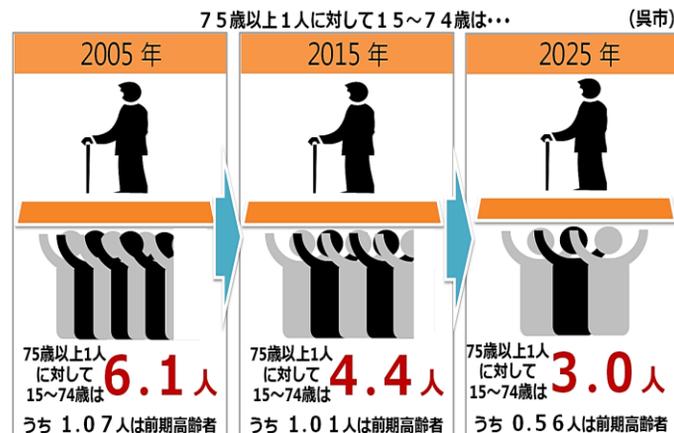


資料: 平成27年度 国勢調査

少子高齢化と担い手不足

呉市の高齢化率は今後も上昇する見込みで、このまま少子高齢化がすすむと、2025(H37)年には、15~74歳の3人で後期高齢者(75歳以上)1人を支えることとなります。

支援が必要な高齢者が増加し、生活支援ニーズが多様化していく一方で、それを支える専門職など担い手の数は減少する見込みです。



資料: 三菱UFJリサーチ&コンサルティングのもとで作成

※2005年、2015年のデータは住民基本台帳(各年9月末)

※2025年のデータは国立社会保障・人口問題研究所;日本の地域別将来推計人口(平成26年3月推計)

呉市においても、人口減少、少子高齢化などの課題を抱えており、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために、医療・介護の連携に加え、生活支援サービスや住民の支え合いなどによる地域包括ケアシステムの推進が求められています。

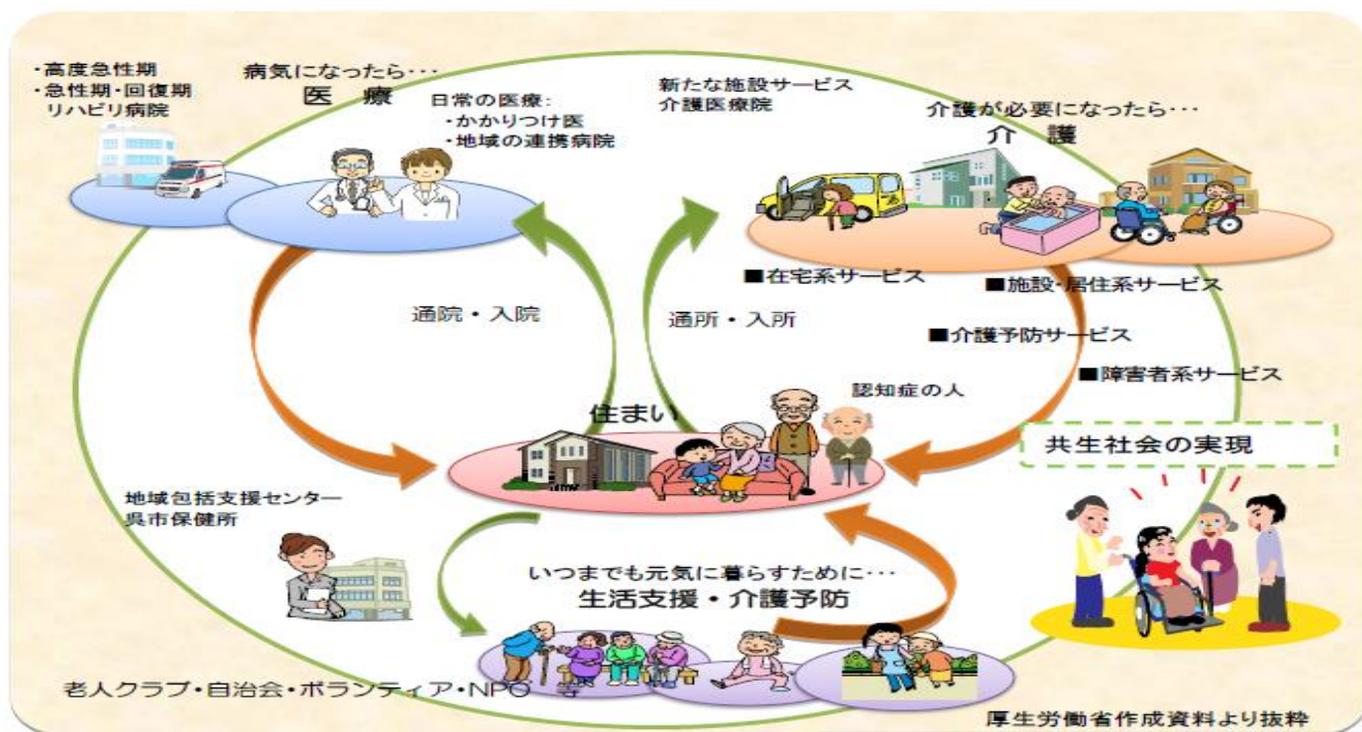
2 地域包括ケアシステム

呉市の地域包括ケアシステム

地域包括ケアシステムは、一人ひとりの暮らし方に合った「住まい」を中心に、「医療」「介護」「生活支援・介護予防」などのサービスが、切れ目なく提供される仕組みのことです。

呉市では、医師、薬剤師、看護師などの専門職、介護サービス事業者、民生委員、老人クラブなど地域の関係団体、さらには、行政や地域包括支援センターが連携を強化し、皆で力を合わせて、地域全体で支える体制を目指しています。

呉市の地域包括ケアシステムのイメージは次のとおりです。



呉市の取組み

呉市では、「高齢者がいきいきと暮らし、つながりのあるまち」を基本理念に、高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止を図るとともに、サービスを必要とする人に必要なサービスが提供されるよう取組を推進していきます。

また、国が定める基本指針に沿って、「在宅生活」や「在宅介護」の推進に向けて、様々な検討を進めていきます。

| 取組方針 | 重点施策 |
|---|-------------------|
| 高齢者への自立支援と要介護状態の重度化防止に向けて、データヘルスを活用するとともに、医療機関や介護サービス事業者など関係者が連携を強化し、地域包括ケアシステムの取組を推進し、地域共生社会の実現を目指します。 | 1 地域包括支援センターの機能強化 |
| | 2 在宅医療・介護の連携強化 |
| | 3 認知症対策の推進 |
| | 4 自立支援・重度化防止の推進 |
| | 5 地域ケア会議の推進 |

具体的な取組等については、呉市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画〈地域包括ケア計画〉をご覧ください。